

## 今後の共助の社会づくり講座について

かながわコミュニティカレッジでは、参考資料3のとおり、平成29年度から、いろいろなツールを使って、市町村と連携し、共助の社会づくり入門講座を実施してきており、令和元年度で3年目を迎える。平成30年度からは、専門講座の1つとして、共助の地域づくりを推進する講座等も併せて実施した。

また、平成30年度の第3回運営委員会では、下記のとおり、堀田カレッジマスターから、共助の社会づくり講座について、大都市圏でのモデルを作ることなどについても言及があった。

そこで、かながわコミュニティカレッジとしての、今後の大都市圏でのモデルづくりに向けた、共助の社会づくり講座のあり方について、委員の皆様により自由なご意見をいただき、今後の検討の参考とさせていただきたい。

(堀田カレッジマスターからの言葉 抜粋)

○ 従来のNPOを中心とした点だけのモデルでは、もう間に合わないので、地縁を入れた面づくりのいろいろな講座を設けられることが、市町村に対してモデルを示すことになります。

しかし、留意する点は、地縁活動を盛んにすることをこの講座でやっていこうとすると、最初の議題にあった、応募者が多い方がいい、満足度が高い方がいい、という講座の評価について、満足度が高い方がそれはそれでいいですけど、地縁活動を盛んにする講座にはたくさん人は来ませんよね。自治会長がNPOみたいに参加してくれるようなことはないです。先駆的な講座であればあるほど、応募者は初めの頃は少ない講座も出てくるかもしれませんが、ただ、それが流れに沿った先駆的な内容を持っていけば、まさに県がやる意味が大きい。応募率に必ずしもこだわらず、大きな流れの中で、どうしてもやっていかなければいけない講座を選ぶことが、ひとつ大事なことになってくるだろうと思います。

○もうひとつは横浜の特徴の大都市圏ということですが、大都市のモデルと南足柄や大和市では、助けの作り方も違うし、養成の仕方も違う。全国を見ると地域型のところはいいが、大都市圏でこの事業が進んでいるところはほとんどない。東京も周辺部はいいけど、真ん中は全滅ですし、他の政令市も調査しましたが、鶴山さんが入っている新潟市が、政令市の中ではいちばん進んでいる。それに次いで群馬の高崎とかいくつかあるのですが、あとは全然ダメですね。これはそもそも助け合いを仕掛ける人の繋がりが非常に薄くなっていて、仕掛け方も分からないし、仕掛けても反応が無い。しかも広くて人が多いから、点みたいな成果しかない。政令指定都市における共生社会はここがモデルだというのは、かろうじて新潟くらい。これをもし神奈川県でこのコミュニティカレッジがリードして作れば、全国の刮目のモデルになるので、今年とはいいいませんが、取り組むぐらいの意欲が欲しいですね。

(論点)

- 今後の面づくりのモデルとなる講座の開発に向け、入門講座には、どのような集い方のツールが有効か。
  - ・ 実績のある回想法、健康体操（コグニサイズ等）、フレイルチェック、未病ウォークなどに追加できるものはないか。
  
- 地縁を含めるため、初めの頃は応募者が少なくとも、(時代の)大きな流れに沿った先駆的な講座となるためには、どのような要素が必要か。
  - ・ そもそも地縁組織の人が参加しやすい学びの場として必要な要素は何か。
  - ・ 人のつながり方が、地域で状況が違う中での講座の仕掛け方は。
  
- コミュニティカレッジがリードして作る大都市圏のモデルとなるような講座を検討するには、どのような視点が重要か。
  - ・ 共助の社会づくり講座に、これから参加したい人、すでに活動している人は何を求めているか。
  - ・ 共助の社会づくりに向けて、活動の実践に役立つ講座とはどのようなものか。

(例) 「地域アセスにより自らの地域の課題を整理する講座」

「課題解決に向けてクリアしなければならない問題を知る講座」

「地域資源や行政の支援を知り、課題解決のプロセスを描く講座」